

(1) 園芸の生産拡大

1 実績

「稼げる産地・経営体づくり」へ

- (1) 主食用米の需要が減少しているなか、園芸作物の生産力の拡大・強化に向けて、生産から販売までの一貫した取組みを実施
- (2) 稼げる！園芸産地プランの策定支援
市町村が産地ごとに目指すべき具体的な姿(目標)を定めたもの。**174産地が策定** (野菜98, 果樹45, 花き31)
- (3) 園芸生産に新規に取り組む生産者の育成
63経営体で新規に導入(R4) (目標: 60経営体/年、青ねぎ20、ぶどう13など)

2 R5年度の取組み、進捗

- (1) **水田での生産拡大**
➢機械化体系が確立し、省力化が可能かつ需要が見込まれる品目
水田園芸拡大品目(たまねぎ、にんじん、キャベツ、さといも)を中心に生産を拡大
- (2) 農業支援サービスを活用した**労働力の確保**
➢6/12~9/8の期間で、たまねぎ、加工用トマト、青ねぎ等の収穫作業等を実証
- (3) **「マーケットから考える園芸拡大研究会」**の開催(4回)
➢シンポジウムやセミナーの開催により、ニーズのある品目を提案
(「かぶ」や「さつまいも」など)



支援サービスによる
加工用トマトの収穫



シンポジウムの開催

(2) 人材の確保・育成（新規就農、研修、産地での受け入れ）

1 実績（新規就農者の育成状況）

項目	H30	R1	R2	R3	R4
新規就農者数	63	63	80	61	84
うち、法人就農（従業員）	47	46	52	40	54
うち、自営就農	16	17	28	21	30
うち、主穀作（複合含む）	49	49	53	41	53
うち、園芸	9	12	23	14	27
【参考】法人就農の割合	75%	73%	65%	66%	64%
【参考】園芸の割合	14%	19%	29%	23%	32%

- ・新規就農者は、近年、年間60人から80人で推移
⇒ 年間120人以上を目指して取組強化が必要
- ・就農形態別では、自営就農者が増加傾向だが、法人就農が多い
⇒ 雇用できる法人の育成が必要
- ・経営内容別では、近年、園芸志向者の割合が増加傾向

2 R5年度の取組み、進捗

(1) とやま農業未来カレッジの機能拡充の準備を開始

①R6年度から通年研修生の定員を15名から25名に拡充

R5年度（第9期生）は14名が県内での就農に向けて研修実施中

②R7年度からの園芸の自営就農希望者向け実践研修（2年目コース）の設置を準備中

(2) (公社) 富山県農林水産公社に就農コーディネーター1名を配置（R5年7月）

(3) オンライン配信による「とやま就農体験セミナー」を2回開催（R5年9・10月）

R5は、魚津市果樹振興会（魚津市）と（農）富山あんぽ柿共同加工センター（南砺市）で取組中

(4) 園芸産地が主体となった就農希望者の受入体制づくり（モデル事業の実施）

(5) 富山大学において、農業経済学に関する寄附講義の実施

学生向け講義（前期15回）、県民向け公開講座（3回）を開講し、国内外及び富山県の食料・農業情勢等について紹介

(6) 農地の継承・活用対策を図る、兼業農家の子弟向けセミナーの開催（R5年10月）

3 今後の方向性

- ・経営の継続性確保のため、経営の核となる人材を雇用できる法人の育成
- ・農繁期の農作業と地域の労働力をマッチングするなど多様な労働力の活用

(3) 持続可能な農業生産 (有機農業の推進、飼料の自給率向上、プラスチックフリー肥料)

1 R4年度実績

- (1) 有機農業の取組面積・・・R2：219ha → R4：221ha
- (2) 飼料用稲の栽培面積・・・R2：1,153ha → R4：1,373ha
- (3) プラスチックフリー肥料の実用化・・・農業研究所、現地ほ場でのデータ収集

2 R5年度の取組み、進捗

(1) 有機農業の推進

- ・とやま有機農業推進アドバイザー制度の新設
県内の先駆的な実践農業者5名をアドバイザー登録し、指導体制を整備
- ・とやま有機農業アカデミーの開催
アドバイザーを講師とした、新規栽培者向けの研修会を開催（全5回講座で、延べ52人が受講）
- ・とやま有機農業ネットワークの開設
有機農業に関する多様な情報の共有や交流ができる場をSNS上に開設
- ・とやま有機農業生産推進大会の開催（R5.12.20予定）

(2) 飼料の自給率向上

- ・「とやま和牛」への酒粕給与 ・飼料用稲、子実トウモロコシの栽培、指導
- ・畜産クラスター事業を活用した機械導入支援

(3) プラスチックフリー肥料

- ・水稻のプラスチックフリー配合肥料（SCU+Jコート）の実証試験の実施（県内13箇所）

3 今後の方向性

- ・有機農業：新規栽培者の掘り起こし、慣行栽培から有機農業への転換
- ・土壌診断に基づく施肥や緑肥作物の活用 ・耕畜連携の強化による循環型農業の取組支援



アドバイザー委嘱状交付式
(令和5年5月23日)



とやま有機農業アカデミー
第5回講座
(令和5年8月2日)

(4) 農林水産物等の輸出拡大

1 R4年度の輸出実績 33.3億円

・R3年度（16.6億円）から約2倍

品目	R2	R3	R4	R8(目標)	概況
コメ(加工品含む)	2.7	2.6	4.5	10	香港、英国、米国向けコメが拡大
日本酒等	3.3	4.9	5.9	65	県内酒蔵の海外での受賞などが後押し
水産物(加工品含む)	4.3	4.8	4.2	15	冷凍魚がやや減少
その他品目	1.7	4.3	18.7	30	干柿や鶏卵が増、健康食品、冷菓が追加
合計 (取組事業者数)	12.0 (54者)	16.6 (61者)	33.3 (62者)	120 (100者)	



米・パックご飯

2 R5年度の主な進捗

(1) とやま輸出コミュニティ（R4/6/22発足、会員数166者（10/31現在））

・セミナーの開催や各プロジェクトへの参加事業者の募集などを実施

(2) リーディングプロジェクト

名称	対象国	時期	内容
欧州「アニマルフリー」プロジェクト	ドイツ・ケルン	令和5年10月 7日～11日	「ANUGA 2023」での富山県ブース出展
インドネシア「BtoB」プロジェクト	インドネシア ・ジャカルタ	令和5年12月頃	ジャカルタ市内のレストランでの富山県 フェア及び商談会
香港「弁当」プロジェクト	アジア	令和6年3月頃	現地バイヤーと共同して弁当開発・販売



地酒

(3) 地域商社

・地域商社を中心に県産品をまとめて輸出する輸出プラットフォームを構築

事業者名	主なターゲット国	想定商品
(有)グリーンパワーなのはな	米、英、仏、独、加	コメ・コメ加工品、調味料 等
(株)ジェック経営コンサルタント	台湾、中国、タイ	麺類、調味料、日本酒 等
(株)横山商会	香港、欧州	日本酒 等



干柿

(5) - 1 米消費拡大 ～スポメシでお米の良さを紹介～

スポーツ時のエネルギー補給にご飯が最適であることを紹介し、お米の購入を促進

1 スポメシのPR

- ・スポーツと絡め、エビデンスに基づき、“お米が身体に良い、脳が活性化される”等をテレビ番組や動画で紹介
- 県内のジュニアスポーツチームが出演

2 ご飯を摂り入れる運動

- ・ジュニアスポーツイベントに参加している子どもたちにパワーボール(だし入りの小さいおむすび)を配布

3 購入応援キャンペーン

- ・県内スーパー等と連携して、県産米を購入者に、抽選で協賛の商品をプレゼントする企画を展開



スポーツする子どもにご飯でエネルギーチャージ



小売店でのキャンペーン



スポメシレシピ紹介 (HPで掲載)

(5) - 2 米消費拡大 ～米粉の活用促進～



とやま米粉のロゴ

食品加工業者の商品開発と、開発商品のPRを支援

1 米粉の活用方法を学ぶ研修会



研修会の様子（横田副知事挨拶）

- ・参加者70名
飲食店、菓子店、女性起業家、
食品製造会社ほか

2 米粉商品のPR販売



食の王国秋フェスタ2023
・県産米粉の加工販売
事業者によるPR販売
(16事業者が出展)



(参考) 県内の米粉用米の作付面積と生産量の推移

年度		H21	H23	H25	H27	H29	H30	R元	R2	R3	R4
富山県	作付面積(ha)	7	204	121	128	115	78	86	120	178	249
	生産量(t)	41	1,111	662	696	634	429	473	657	979	1,371
全国	作付面積(ha)	2,401	7,324	3,965	4,245	5,307	5,295	5,318	6,346	7,632	8,403
	生産量(t)	13,041	40,311	21,071	22,925	28,331	28,065	28,166	33,361	40,361	44,605

富山県産米粉商品
取扱事業者のご紹介

icoOWL studio
ブチフル テレリ
Reiwa Pancake
ごしょカフェ
窪田農産
bakery&café KARVAN
花 ASOBI
とべーくる
米っ粉倶楽部
愛粉グループ
有限会社 土道野
NPO法人山田の葉山子
おわらの里
コモコノオヤツ mofu
(株)NOROSHI FARM
譲うっぱん

とやま米粉消費拡大販売推進事業